

科目名	嚥下障害Ⅰ			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必須	配当学年 時期	ST2年 前期
【授業の目的・ねらい】 摂食嚥下障害は、生命を脅かすだけでなく、本人および家族の生活の質を著しく低下させる。言語聴覚士（ST）は摂食嚥下能力の向上と、摂食嚥下に関する活動や参加への援助に携わる。この講義では、嚥下障害の基礎知識（解剖、生理）と評価・治療を学習し、STの役割と課題について学ぶことを目的とする。								
【実務者経験】 言語聴覚士として明石同仁病院、むらまつ歯科、やさしいそら訪問看護ステーション等に勤務、主に在宅分野にて高次脳機能障害（失語症含む）・嚥下障害・構音障害分野でのリハビリに従事。								
【授業全体の内容の概要】 摂食嚥下にかかわる器官と嚥下のメカニズム、及び嚥下障害の原因となる疾病と外傷、嚥下障害の病態について理解し、それらに基づいた評価法および訓練内容を学ぶ。								
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 1. 嚥下にかかわる器官と嚥下のメカニズムを理解する 2. 対象者の病態・様態に関わらず摂食嚥下障害を評価するための知識を身につける 3. 摂食嚥下障害に対する治療法・リハビリテーションを理解する								
回数	講義内容						準備物(教材)	
1	STの役割と多職種との役割、チームアプローチについて理解できる						配布資料 教科書	
2	摂食嚥下機能障害と嚥下5期モデルについて理解できる						配布資料 教科書	
3	嚥下にかかわる各器官（解剖）について理解できる						配布資料 教科書	
4	嚥下にかかわる各器官（解剖）とそれらの機能（生理）について理解できる						配布資料 教科書	
5	加齢による嚥下の生理的変化について理解できる						配布資料 教科書	
6	摂食嚥下の発達（小児嚥下）について理解できる						配布資料 教科書	
7	摂食嚥下の観察、評価について理解できる①						配布資料 教科書	
8	摂食嚥下の観察、評価について理解できる②						配布資料 教科書	
9	摂食嚥下に関する主な検査を理解できる（嚥下造影、嚥下内視鏡検査）						配布資料 教科書	
10	摂食嚥下障害に対するリスク管理について理解できる						配布資料 教科書	
11	摂食嚥下障害に対する訓練法について理解できる①（基礎訓練）						配布資料 教科書	
12	摂食嚥下障害に対する訓練法について理解できる②（直接訓練）						配布資料 教科書	
13	摂食嚥下障害に対する外科的アプローチについて理解できる						配布資料 教科書	
14	摂食嚥下障害と栄養について理解できる（代替栄養法）						配布資料 教科書	
15	演習（言語聴覚士国家試験過去問）を通じて理解度を知る						配布資料 教科書	
定期試験								
【使用教科書・教材・参考書】 嚥下障害ポケットマニュアル 第4版 言語聴覚士テキスト 第3版								
【準備学習・時間外学習】 授業内容の復習が必要である。講義内で確認テストを行う（ただし、あくまで復習を促すためであり、単位認定は下記の通り定期試験の成績で決定する）。								
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。								